

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成24年2月9日(2012.2.9)

【公表番号】特表2009-530625(P2009-530625A)

【公表日】平成21年8月27日(2009.8.27)

【年通号数】公開・登録公報2009-034

【出願番号】特願2009-500821(P2009-500821)

【国際特許分類】

G 0 1 S 19/12 (2010.01)

H 0 4 W 88/02 (2009.01)

H 0 4 W 64/00 (2009.01)

G 0 1 S 19/25 (2010.01)

G 0 1 S 19/46 (2010.01)

【F I】

G 0 1 S 5/14 5 2 9

H 0 4 Q 7/00 6 4 4

H 0 4 Q 7/00 5 0 4

G 0 1 S 5/14 5 4 3

G 0 1 S 5/14 5 7 8

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年12月9日(2011.12.9)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 3 1】

端末によって受信される信号は、上述のようにあらゆる種類とすることができるが、到達時間情報を判断することができる成分を含んでいなければならない。この情報は、受信の瞬間とすることができ、又は識別された成分が検出される時の瞬間に対応する遅延された時間とすることができる。特定の用途において、時間情報は、識別成分との明確な時間又は位相関係を有する受信信号の別の特性に対応する瞬間とすることができる。例えば、この情報は、制御チャンネルにおける特定のフレーム移行の受信時刻を参照することができる。G S M 端末の場合、識別された成分は、「ブロードキャスト制御チャンネル(B C C H)上で搬送される拡張トレーニングシーケンス(E T S)とすることができるであろう。W - C D M A 端末は、「主同期チャンネル」のデータワードを使用することができると考えられる。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 3】

識別された成分の受信の瞬間は、瞬時に測定する必要はなく、一般的に、瞬時に測定しないことが便利な場合もある。例えば、識別された成分としてE T Sを使用するG S M 端末においては、多くの場合にベースバンドデータストリームがバッファに格納され、受信の瞬間後の何らかの時間に相互相関がデジタル的に実行される。この処理遅延は、一定でない場合があり、較正によって取り除くことができるので、本発明の特定の用途によって

は実際には問題にならないと考えられる。しかし、一部の用途においては、識別成分が検出された状態で、バッファ及び処理の前の時点に戻って受信の瞬間を参照することができるように、独立した発振器の瞬時の計数値を用いてベースバンドデータストリームの各サンプルにタグ付けを行うことが便利な場合がある。通信受信機のアナログ部に関連する遅延が存在する場合もあるが、これは非常に小さいと考えられ、実際には一定であり、必要に応じて校正により取り除くことができるであろう。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0054

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0054】

一方、段階301から303までとは非同期的に、通信受信機201は、段階304でETSを受信して（これらは、50ms毎又はその程度で発生する）、リンク203を通じて対応するベースバンドI及びQサンプルをプロセッサ204に転送する。カウンタ206は、プロセッサ205に定期的に割り込みを行い、プロセッサは、カウンタ状態を対応するI及びQサンプルに関連付けることにより応答する。プログラム205は、ETSテンプレートとの複素相互相関、及び次に補間を実行し、その結果、それは、計算後に、サブカウント精度を有するカウンタに対するETSの到達の瞬間の値を有する（段階305）。式1のMに等しいこの値は、段階306でソフトウェアプログラム210に転送される。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0058

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0058】

一方、段階401から404までとは非同期的に、通信受信機201は、段階405でETSを受信して、リンク203を通じて対応するベースバンドI及びQサンプルをプロセッサ204に転送する。カウンタ206は、プロセッサ205に定期的に割り込みを行い、プロセッサは、カウンタ状態を対応するI及びQサンプルに関連付けることにより応答する。プログラムは、ETSテンプレートとの複素相互相関、及び次に補間を実行し、その結果、計算後に、プログラムは、サブカウント精度を有するカウンタに対するETSの到達の瞬間の値を有する（段階406）。この値は、段階407でソフトウェアプログラム210に転送される。